



AIが合図者のジェスチャーを検知  
(運転席のディスプレイ)

人の姿勢やジェスチャーといったアナログ情報をデジタル化することで、距離が離れていたり、騒音などで意思疎通を図ることが難しい場合で

建設機械の周囲に人がいることで発報する従来の安全管理システムとは異なり、合図者側から意思を能動的に発信できることが特長だ。そのため、不要検知が少なく、合図者に装備は不要。

AI's (アイズ) は、建設機械に簡易取り付けできるシステムで、AI (人工知能) を活用して人の骨格を推定することで姿勢を検知できる。作業員が建設機械の死角にいても合図 (ジェスチャー) により両手・片手を上げた場合にAIカメラが認識し、建設機械のオペレーターに音とディスプレイ上で通知する。

建設 (岩見沢市) と共同開発したAI姿勢検知システム『AI's (アイズ)』が注目されている。



木下CEO  
建設ICTスタートアップ企業『NexTerrace (ネクステラス)』が、こぶし

ネクステラス

北海道札幌市の

## AI活用で安全性、生産性双方の向上実現

木下CEOは、25年はAIエージェントの本格的な到来と建設業での空間コンピューティングの活用に着目し、「建設会社様との『共創』の精神を大切に、心が震えるほどのワクワクする感性、感動する取り組みをお客さま、パートナーさまとともに体現したい。デジタル技術を活用して今後も顧客の思いに応えていく。ワクワクがイノベーションの出发点」と意欲を見せる。

一方、アップル社のヘッドマウントディスプレイであるVision Proに対応したアプリ開発も進めており、生成AIを組み込んで現場の生産性を向上させる革新的なツールになるという。

木下大也代表取締役CEOは、「AIを活用してデジタルコミュニケーションを円滑にすることを根本の目的とした結果、現場での安全性と生産性の両方を向上させることに成功した」。また、「AIによる骨格推定を現場での合図検知に応用するというほかにはない斬新なAIの活用法」と話し、建設DXがもたらす生産性向上に向けた製品として、そのメリットを語る。

新技術・新製品開発賞において、ものづくり部門で奨励賞を受賞した。



AIカメラに合図することでオペレーターへの意思を伝達

も現場でのジェスチャーコミュニケーションを補助し円滑にすることで、接触事故防止などに役立つ。  
2023年末にNETIS登録、24年度には北海道

イノベーションは  
ワクワクする気持ちから・・・

NETIS登録番号 KT-230227-A  
AI姿勢検知システム  
『AI's』  
※こぶし建設株式会社との共同開発

建設業特化型ARアプリ  
『TerraceAR』

LiDARを活用した現場計測アプリ  
『ConstLiDAR』  
※萩原建設工業株式会社との共同開発

LiDARを活用した除排雪量計測アプリ  
『NorthCan』

nexterrace.com
YouTube